

2012 年 1 月 1 日

《ご参考》

2012 年 年頭所感

昨年は東日本大震災やタイの大洪水など、多くの方々の生活に直接、影響を与える自然災害が発生しました。被災された方々・地域の一刻も早い復興と新たな飛躍をお祈りし、私たち自身もこの試練を乗り越えて、新しい一年を明るく元気にチャレンジしていきたいと思います。



代表取締役社長 重松 崇

◆ 厳しい経営環境

想定外の災害に加え欧州の経済危機と、それに起因した円相場の高騰も国内企業に大きな打撃を与えています。当社業績は2011年度上期、特に震災の影響が大きく前年同期比で減収減益となりました。また2011年度通期の見込みは下期の自動車販売の挽回を考慮して、2010年度並みの売上高、営業損益の黒字化を目指します。純損益では震災関連の特別損失もあり、2010年度に引き続き赤字と予想しています。

◆ 黒字化、V字回復に向けて

この状況を打開するため、2011年より「12年度黒字化」と「14年度以降のV字回復の筋道立案」を目的に下記取り組みを進めています。

- ・「成長戦略の立案」 — 先端のデジタル技術・情報技術を導入し、これまでに無い新商品で新しい市場を開拓 など
- ・「収益体質の強化」 — 国内生産体制の再編 など
- ・「職場意識や風土改革」 — 徹底した顧客志向 など

◆ 当社の目指すべき方向 ～“ツナガル”ビジネスモデルの創出～

新興国地域へ急速に広がる情報革命によって、従来ノウハウとして価値を持っていた技術が、誰でもどこでも設計・生産が可能な標準モジュールへと変換され、かつ、クルマでしか利用できなかった情報、例えば、ナビの機能がスマートフォンなど携帯情報端末を通してどこでも利用可能になってきました。

このような背景の下、当社の目指すべき方向として、将来を見据えて大きく次の2つに取り組めます。1つ目は、簡素なハードをベースにした“ツナガル”「安心・安全サービス事業」、もう1つは、電気自動車など新世代のクルマをターゲットとする新たな「グリーン事業」です。特に、ソフトウェア技術と情報通信技術の確立を急ぎ、また、グローバルに2つの事業が成立するよう、富士通グループと連携して体制の整備を進めます。

経営環境を取り巻く状況は厳しさを増す一方ですが、自動車ならびに ICT 分野の両方の事業領域を持つ当社にとって、更なる飛躍を遂げる大きなチャンスと認識し、上記取り組みを完遂してまいります。